

# 一般財団法人 中辻創智社

## 第7期（2021年度）事業報告書

（2021年4月1日—2022年3月31日）

### I. 概要

当法人は2015年の設立以来、学術と科学技術の健全な発展を願い、社会と次世代を担う若者を支援することを目的に、研究奨励部門として「研究費助成公募」「会議開催費助成公募」、人材育成部門として「理系出身者への法科大学院奨学金」「困難な状況にある子ども達への学習支援」の4事業を実施してきた。これらの事業では、自然環境保全を担う基礎生物学のうち研究継続が困難な状況にある研究課題に対する研究費助成、文系及び理系学術分野の勉強会やシンポジウム等に対する会議開催費の助成、理系分野の学問的背景を有する法科大学院生への給付型奨学金、子ども食堂や子どもの居場所に学習支援機能を付与するための助成を展開している。上記事業の財源は、基本財産及び特定資産の運用益を用いている。

当法人は主たる事務所を京都市中京区麩屋町通夷川上る笹屋町459番地に定め、定款に従い以下の役員等で構成される。

役職	氏名	常勤・非常勤の別	職務・現職
代表理事	中辻憲夫	非常勤	京都大学名誉教授（理学博士）
業務執行理事	細川美穂子	常勤	職務統括（事務局長兼務） （医学博士）
理事	長谷川博	非常勤	研究奨励選考委員会委員長・ 東邦大学名誉教授
理事	藤本一郎	非常勤	人材育成選考委員会委員長・ 弁護士法人創知法律事務所代表弁護士
監事	新居誠一郎	非常勤	新居合同税理士事務所所長・ 税理士

役職	氏名	常勤・非常勤 の別	現職
評議員	饗庭一博	非常勤	エリクサジェン・サイエンティフィック・ジャパン株式会社ゼネラルマネージャー（理学博士）
評議員	門田真	非常勤	信州大学バイオメディカル研究所・医学部再生医科学教室助教（医師・医学博士）
評議員	加納圭	非常勤	滋賀大学教育学部教授（生命科学博士）
評議員	小板貞一	非常勤	株式会社前側建設代表取締役
評議員	迫田さやか	非常勤	同志社大学経済学部准教授（経済学博士）
評議員	中馬新一郎	非常勤	京都大学医生物学研究所准教授（獣医師・理学博士）
評議員	中辻孝子	非常勤	元東海大学教授（医学博士）
評議員	仲屋麻希子	非常勤	フリーライター、同志社女子大学非常勤講師
評議員	西川輝昭	非常勤	名古屋大学名誉教授（理学博士）

職員は常勤1名（兼務職員）、非常勤1名（週2日）の計2名で業務にあたった。

当事業年度における許認可に関する事項として、第7回評議員会（2021年5月31日）において定款の変更を行なった。

## II. 事業の状況

### 1. 事業計画の実施状況

#### 公益目的事業 1

##### 1-1: 研究奨励部門

##### (A)研究費助成公募

定款に定める事業(1)若手研究者の研究助成事業  
(予算額 800 万円、助成額 885 万円)

自然環境は一度失われてしまうと取り戻す事が難しく、保全における喫緊の課題については行政を主体に多くの既存事業により解決が試みられている。一方、50年後、100年後の将来、自然環境保全について何が課題となっており、これを解決するためにどのような基礎研究が必要となるか、現時点では予測が容易ではない。長きに渡り豊かな自然環境を保つためには、将来の自然環境保全にとって支えとなり得る基礎研究の芽を広く守り育てることが重要であり、これに資するため、自然環境保全を担う生物学領域の中心的分野について、研究に必要な競争的資金を十分得ることができず、継続が困難な研究課題を対象に、研究費助成公募を実施した。

2021年4月15日から6月14日を公募期間とし、全国の国立大学及び主要博物館、主な対象分野である日本動物学会、日本生態学会、日本分類学会連合へ周知依頼を行うとともに、JSTサイエンスポータルに公募情報を登録し、財団ウェブページに掲載する事で広く開かれた公募体制を整えた。

研究費助成公募選考要項に従い研究奨励選考委員が各申請書を採点し、集計後、選考委員による合議制の審査会を2021年7月21日に開催し採択課題を決定した。2021年度は100万円助成課題6件、50万円助成課題4件の募集件数に対して、100万円助成課題29件、50万円助成課題7件、合計36件の応募があり、100万円助成課題7件、50万円助成課題2件を採択した。採択率を考慮し追加で100万円助成課題のうち次点であった2件について、予算枠増枠分の100万円をあて各50万円の減額採択とした。

	2018年度 第1期	2019年度 第2期	2020年度 第3期	2021年度 第4期
申請総数	40	30	30	36
採択総数	10	11	11	11
採択率	25.00%	36.70%	36.70%	30.56%
助成総額	700万円	800万円	950万円	885万円

100万円助成課題（7件）

氏名	所属	職位	研究課題名	摘要
宮本圭	一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター動物研究室	主任研究員	中深層性魚類における生物蛍光の役割を探る	
山梨裕美	京都市動物園生き物・学び・研究センター	主席研究員	絶滅危惧種の心身の健康を評価するための行動モニタリング手法の開発	申請金額 93 万円
藤本真悟	琉球大学熱帯生物圏研究センター西原研究施設	博士研究員	メダカ野生集団における生活史の適応進化に関する候補遺伝子の探索	
田中愛子	名古屋大学生命農学研究科	研究員	サツマイモ栽培種の進化における T-DNA 領域の意義	
山口忠則	九州大学大学院総合理工学府海洋モデリング研究室	大学院生	平衡石の微量元素と海洋数値モデルを用いたスルメイカ移動生態の解明	申請金額 92 万円。Ph.D. を所持し主体的な研究実績があるため応募資格を有すると判断した。
井筒ゆみ	新潟大学理学部	教授	発生過程における上皮器官形成に働く新規自己免疫システム	
角田智詞	福井県立大学生物資源学部生物資源学科	助教	遺伝子応答から迫る植物防御における防御価値が異なる器官の連携	

50万円助成課題（2件+減額採択2件）

氏名	所属	職位	研究課題名	摘要
鈴木聡	神奈川県立生命の星・地球博物館企画情報部	学芸員	体毛の窒素・炭素安定同位体分析に基づく中小型食肉目動物の生態的地位の定量的評価	
脇司	東邦大学理学部生命圏環境科学科	講師（専任）	国内外来種のカタツムリに寄生する吸虫の由来検討と、その吸虫の蔓延状況把握に関する研究	
Gustavo Sanchez	広島大学大学院統合生命科学研究科	助教	アメリカオオアカイカの特異的な進化の軌跡	次点につき減額採択
花原望	一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター	研究員（パートタイム）	小型魚類イソハゼ属の多様化プロセスの解明	次点につき減額採択

研究費公募に関するその他の報告事項

2021年度はこれまでの採択課題から11件の論文発表があった。

氏名	所属	採択年度	発表論文
田中愛子	名古屋大学	2021年度	"Production of Agrocinnopine A by Ipomoea batatas Agrocinnopine Synthase in Transgenic Tobacco and Its Effect on the Rhizosphere Microbial Community" Mol Plant Microbe Interact. 2022 Jan;35(1):73-84.
野呂和嗣	大阪府立環境農林水産総合研究所	2020年	"Photolysis of polycyclic aromatic hydrocarbons adsorbed on polyethylene

			microplastics" Mar Pollut Bull. 2021 Jun 2;169:112561.
前川匠	大阪市立自然史博物館	2020年度	"Smithian (Olenekian, Early Triassic) Conodonts from Ammonoid-Bearing Limestone Blocks at Crittenden Springs, Elko County, Nevada, USA" Paleontological Research, 25(3):201-245 (2021).
工藤愛弓	摂南大学	2020年度	"Lack of discrimination of sex and maturity of conspecifics in the copulation attempts of the male stalk-eyed fly, <i>Sphyracephala detrahens</i> (Diptera: Diopsidae)" Journal of Ethology January 2022
和仁良二	横浜国立大学	2020年度	"Ontogenetic trajectories of septal spacing and conch shape in the Late Cretaceous gaudryceratid ammonoids: implications for their post-embryonic palaeoecology" Palaeontology, vol. 65, e12587.
和仁良二	横浜国立大学	2020年度	"Conservative ontogenetic trajectories of septal spacing during the post-embryonic stage in Cretaceous ammonoids of the subfamily Desmoceratinae" (In Press)
飯田敦夫	名古屋大学	2019年度	"Histological observation of the reproductive system in a viviparous teleost <i>Xenotoca eiseni</i> Rutter 1896 (Cyprinodontiformes: Goodeidae)" Anat Histol Embryol. 2021 Jan;50(1):161-168.
飯田敦夫	名古屋大学	2019年度	"Cubam receptor-mediated endocytosis in hindgut-derived pseudoplacenta of a viviparous teleost <i>Xenotoca eiseni</i> " J Exp Biol. 2021 Jun 25;jeb.242613.

芳田剛	国立感染症研究所	2018年度	“Simian Immunodeficiency Virus SIVgsn-99CM71 Vpu Employs Different Amino Acids To Antagonize Human and Greater Spot-Nosed Monkey BST-2” J Virol. 2022 Feb 23;96(4).
古水千尋	秋田大学	2018年度	“Insight into early diversification of leucine-rich repeat receptor-like kinases provided by the sequenced moss and hornwort genomes” Plant Molecular Biology 2021, 107(4-5):337-353
古水千尋	秋田大学	2018年度	“The sequenced genomes of nonflowering land plants reveal the innovative evolutionary history of peptide signaling” Plant Cell 2021, 33(9):2915-2934

## (B)会議開催費助成公募事業

定款に定める事業(3) 社会又は科学技術向上に貢献する活動に対する支援事業  
(予算額 300 万円、助成額 320 万円)

自然環境と調和した科学技術及び社会の健全な発展には、多種多様な基礎研究を広く守り、多彩な方向へ学術や科学が発展できるための土壌を醸成し、将来の担い手となる若手研究者を育成することが重要と考える。これに資するため、文系・理系を問わず、十分な運営資金を獲得できず開催が困難な状況にある会議、大学院生や若手研究者への直接的な支援、公的資金の補完、に重点を置き、会議開催費助成公募を実施した。JST サイエンスポータルに公募情報を登録し、当財団ウェブページに掲載する事で広く開かれた公募体制を整えた。

公募は通年で行い、年 3 回の各審査会に対して申請受理の締め切りを設け審議した。

1 月初日から 4 月末日に受理した申請：5 月の審査会にて審議

5 月初日から 8 月末日に受理した申請：9 月の審査会にて審議

9 月初日から 12 月末日に受理した申請：1 月の審査会にて審議

会議開催費助成公募選考要項に従い研究奨励選考委員が各申請書を審査し、集計後、選考委員による合議制の審査会において採択課題を決定した。2021 年度は 42 件の応募があり 13 件を採択した。

	2018 年度 第 4 期	2019 年度 第 5 期	2020 年度 第 6 期	2021 年度 第 7 期
申請総数	34 件	46 件	34 件	42 件
採択総数	11 件	17 件	12 件	13 件
採択率	32.35%	36.95%	35.29%	30.95%
助成総額	317 万 8738 円	385 万 7200 円	346 万 9000 円	320 万円



採択一覧は下記の通りである。

採択会議名	主催団体	採択金額
第 27 回小型魚類研究会	小型魚類研究会実行委員会	20 万円
次世代分析科学へ向けてのセミナーシリーズ（クラスター）	次世代分析科学を考える会	15 万円
日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際シンポジウム（クラスター）	日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際シンポジウム実行委員会	30 万円
Web セミナー「教員養成における発達障害者支援～在学生支援から在職者支援まで～」（クラスター）	国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学	25 万円
TAMA サイエンスフェスティバル in TOYAKU	TAMA サイエンスフェスティバル in TOYAKU 実行委員会	30 万円
第 61 回生命科学夏の学校	生化学若い研究者の会	30 万円
第 31 回神経行動薬理若手研究者の集い「題名のない研究会」	神経行動薬理若手研究者の集い	30 万円
Ecosystem Services Partnership 3rd Asia Conference	大会実行委員会	30 万円
第 7 回ユニーク会	ユニークな少数派実験動物を扱う若手が最先端アプローチを勉強する会	30 万円
第 33 回日本微量元素学会学術集会	日本微量元素学会	15 万円
日本健康相談活動学会第 18 回学術集会	日本健康相談活動学会	30 万円
第 10 回 ITAM Workshop	ITAM Workshop	20 万円

魚類から探る、多種多様な感覚情報の利用メカニズムと適応的な行動応答の神経基盤（仮）	第 93 回日本動物学会公募シンポジウム	15 万円
---	----------------------	-------

#### 会議開催費助成公募に関するその他の報告事項

- ・ 2020 年度は新型コロナウイルス感染流行の影響を大きく受け申請数の落ち込みが見られたが、2021 年度はオンライン会議システムの充実やワクチン接種率の向上を受け、申請数が回復した。
- ・ 第 61 回生命科学夏の学校から、完全オンライン開催へ変更に伴い助成金の全額返金があった。
- ・ 採択会議のうち 2 件で、新型コロナウイルス感染流行の影響による開催延期の申し出があり、助成期間を延長した。

## 1-2: 人材育成部門

### (A)理系出身者への法科大学院奨学金

定款に定める事業(2)志ある若者に対する奨学金事業

(予算額 400 万円、助成額 435 万円)

近年の急速な科学技術の発展により社会生活の利便性が向上する一方で、新しい科学技術を社会で活用するための法整備が科学技術革新に追いつかない分野、例えば宇宙開発、AI やビッグデータ、高度先進医療等、が散見され、今後とも増加する事が予測される。新しい科学技術の活用には予期せぬトラブルも多く伴われるが、これらの仲裁や解決も法曹における重要な課題と考えられる。また、近年、環境破壊や自然への悪影響が懸念される土地開発や産業活動についての法的係争も散見され、専門的な知識や理解能力を兼ね備えた法曹の重要性が増している。このような状況下において、理系分野の学問的背景を持つ法曹が強くと求められているが、異分野、特に理系分野からの法科大学院進学者数が顕著に減少している。多様な学問的背景を持つ法曹の層の厚みは成熟した社会を支える上で重要であり、これに資するため、理系分野の専門知識・技術を持つ法科大学院生へ月額 3 万円の返済不要な奨学金給付を継続した。

2021 年度は 2021 年 4 月 1 日から 5 月 14 日を募集期間とし、全国の法科大学院へ周知依頼を行うとともに、日本学生支援機構の奨学金データベース及び奨学金ポータルサイトへの登録を行い、財団ウェブページに掲載する事で広く開かれた募集体制を整えた。

理系出身者への法科大学院奨学金選考要項に従い、人材育成選考委員による書類選考（一次選考）を行い、一次選考を通過した申請者について、2021 年 6 月 20 日に選考委員会において面接を実施し、合議による二次選考で採択者を決定した。

2021 年度は 8 名の応募があり、8 名について面接を実施し、5 名を奨学生として採択した。採択者は下記の通りである。

所属・学年	理系的背景
名古屋大学法科大学院 3 年生	物性物理学専攻出身
東京都立大学法科大学院 2 年生	分子生物学・実験心理学専攻出身（修士）
東京大学法科大学院 1 年生	数学・天文学専攻出身（修士）
学習院大学法科大学院 1 年生	応用物理学知能システム専攻出身（修士）
千葉大学法科大学院 1 年生	理工学・教育学専攻出身

2020年度は2名が司法試験に合格した。

九州大学法科大学院卒業（緑地環境学専攻出身）

早稲田大学法科大学院卒業（薬学専攻出身、薬剤師）

#### 理系出身者への法科大学院奨学金に関するその他の報告事項

- ・ 奨学生3名が原級留置（留年）となり、1年間の奨学金停止とした。留年中のサポートのあり方について今後の課題となった。
- ・ 新型コロナウイルス感染流行による対面授業減少の影響が大きく、純粹未修者として入学後、法科大学院内でグループ学習や自主ゼミを行うための同期の仲間をつくれな、何をどのように勉強したら良いかがわからない、という状況が報告され、ウェブセミナー等による奨学生フォローの必要性が高まった。
- ・ 奨学生1名が経済状況悪化に伴う進路変更により退学し、奨学金廃止となった。

## (B)困難な状況にある子ども達への学習支援

定款に定める事業(3) 社会又は科学技術向上に貢献する活動に対する支援事業  
(予算額 300 万円、助成額 310 万円)

自然環境保全と科学技術発展の両者が調和のもとに発展した豊かな社会を実現する上で、担い手となる人材を広く多く育むことが重要と考える。また、社会全体での教育水準の底上げと教育格差の解消は、科学技術の発展や自然環境保全の必要性を理解し、これからの社会で生活し活躍できる人材を育成する上でも重要と考える。

貧困や家庭環境等様々な原因で困難な状況にある子ども達を支援するため、各地で子ども食堂や子どもの居場所が運営されており、これらに集う子ども達には、幼い頃からの学習環境不足や基礎学力欠如により、教育の機会を失ってしまっている者も多い。このような子ども達の中には、潜在的な能力が高く、教育の機会さえあれば将来社会を担う人材となれる者も多く含まれると予想される。子ども達の教育機会を確保し学校教育から取り残されない学習環境を整えることは、将来社会を支える人材を育てるため、また、子ども達が就労機会や社会参画機会を失わず自分自身の将来を諦めてしまわないために重要であり、子ども食堂や子どもの居場所に学習支援機能を付与するため、学習支援の人件費支給に重点を置き、助成公募を実施した。

2022 年の助成（助成期間 2022 年 1 月から 12 月まで）公募を 2021 年 10 月 1 日から 12 月 10 日まで、京都府・大阪府・滋賀県を募集対象として行った。対象地域の行政担当部署、社会福祉協議会、地域の子どもの食堂ネットワークへ周知依頼を行うとともに、財団ウェブページに掲載する事で広く開かれた公募体制を整えた。困難な状況にある子ども達への学習支援選考要項に従い人材育成選考委員が各申請書を採点し、集計後、選考委員による合議制の審査会を 2022 年 1 月 19 日に開催し採択団体を決定した。2022 年の助成公募では 26 件の応募があり、9 件を採択した。

	2018 年度 (第 2 期)	2019 年度 (第 3 期)	2020 年度 (第 4 期)	2021 年度 (第 5 期)
申請総数	27	16	24	26
採択総数	9	10	8	9
採択率	33.33%	62.50%	33.33%	34.61%
助成総額	299 万 7000 円	302 万 2500 円	300 万円	310 万円

採択団体は下記の通りである。

団体名	所在地	助成金額
KADOMA 中学生勉強会（任意団体）	大阪府	40 万円
浪速地域 地域活動協議会（任意団体）	大阪府	40 万円
みんなで学ぶ教室（任意団体）	大阪府	40 万円
merry attic（一般社団法人）	京都府	40 万円
サポートユニオン withYOU（労働組合法人）	大阪府	40 万円
イコルバ！学生会（任意団体）	大阪府	30 万円
Since（任意団体）	滋賀県	30 万円
ニコウェイ（一般社団法人）	大阪府	30 万円
京都 Tera.Coya（任意団体）	京都府	20 万円

#### 困難な状況にある子ども達への学習支援その他の報告事項

- ・ 本事業の第5期（2022年1月から12月）は26件の応募から9団体を採択し、大学生及び大学卒業後の若者が子ども達を支援するために設立した団体の採択が多かったことが特徴的であった（9件中5件が該当）。採択団体のうち1件は、過去の採択団体にて子ども達の学習支援にあっていた大学生が、卒業後、自ら設立した団体であり、本事業の波及効果と認められた。
- ・ 第5期選考会では、作文能力に左右されすぎない申請書の重要性について指摘があり、例えば申請書の記載例の提示など、次回公募への課題となった。
- ・ 2021年2月24日に、京都市社会福祉協議会主催の「子どもの居場所づくりのための助成金活用セミナー」に招かれ、中辻代表理事及び細川業務執行理事が出席し、中辻代表理事から挨拶と法人紹介を行なった。同セミナーでは、本事業が、ボランティア等の人件費や交通費を支出可能な助成金が殆どない中での貴重な例外として、また本助成を契機として子ども食堂の活動を充実発展させた具体例が紹介された。
- ・ 本事業第4期（2021年1月から12月）の助成総額300万円のうち、267万580円が学習支援の人件費として使用された（89%）。
- ・ 第4期（2021年）採択団体からは、新型コロナウイルス感染流行の影響として、不登校児童の大幅な増加、不登校児童の引きこもり悪化、寂しさからのSNS逃避とSNSを介した子ども達の被害増加（性的搾取等）、貧困層

のニーズの可視化が報告された。これらについて、潜在的問題の顕在化と捉える団体も多く、積極的な児童支援に繋げる動きが同時に報告された。具体的には個別の家庭訪問の強化及び年齢が近い大学生との交流機会の確保、民生委員等の地域社会との連携強化を挙げた団体が多かった。学習支援を通じた不登校の克服、高校・専門学校・大学への進学者数の増加についても多くの報告があり、自分に自信を持てた子ども達の喜びの様子が伺えた。また、本事業の学習支援を受け大学進学を果たした学生が学習支援ボランティアとして活動に参加しているとの報告があった。多くの団体で学習支援の充実と発展が伺える一方で、活動が充実するほど学習支援の人件費が不足する問題が指摘され、人件費を上限ありの定額制にする工夫やクラウドファンディング等による資金工面、学習支援の一部について無償化の動きが見られた。

#### その他の報告事項

- ・ 第7回評議員会（2021年5月31日）にて、経済学及び社会学、特に格差問題の専門家である迫田さやか氏が新たに評議員に選任された。
- ・ 2021年度 研究奨励選考委員  
沼田英治（日本動物学会ご推薦 京都大学名誉教授）  
陀安一郎（日本生態学会ご推薦 総合地球環境研究所教授）  
（研究費公募担当）  
遊鷹正秀（日本生態学会ご推薦 龍谷大学教授）  
（会議開催費助成公募担当）  
中辻憲夫（代表理事 京都大学名誉教授）  
長谷川博\*（理事 東邦大学名誉教授、\*委員長）  
細川美穂子（業務執行理事）  
西川輝昭（評議員 名古屋大学名誉教授・国立科学博物館協力研究員）  
中馬新一郎（評議員 京都大学医生物学研究所准教授）  
藤本一郎（理事 創知法律事務所代表弁護士、\*オブザーバー）
- ・ 2021年度 人材育成選考委員  
大瀬戸豪志（京都弁護士会ご推薦 御池総合法律事務所弁護士、7月退任）  
川端伸也（京都弁護士会ご推薦 京都みらい法律事務所弁護士、10月就任）  
堀田克明（大阪弁護士会ご推薦 色川法律事務所弁護士）  
中辻憲夫（代表理事 京都大学名誉教授）

藤本一郎\*（理事 創知法律事務所代表弁護士、\*委員長）  
細川美穂子（業務執行理事）  
（理系出身者への法科大学院奨学金担当）  
加納圭（評議員 滋賀大学教育学部教授）  
迫田さやか（評議員 同志社大学経済学部准教授）  
（困難な状況にある子ども達への学習支援担当）

## 2. 重要な契約

- ・ 2021年2月10日に、細川美穂子事務局長と一般財団法人中辻創智社が雇用契約を締結した。

## 3. 理事会及び評議員会

### (1) 第25回理事会

日時：2021年5月8日 16時00分～18時00分  
場所：zoomによるウェブ開催  
出席：理事4名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）  
監事1名（新居誠一郎）  
公益認定申請代理人弁護士（伊藤翔太）  
審議事項：2020年度（第6期）事業報告の件  
2020年度（第6期）計算書類承認の件  
定款変更の件  
理事選任候補者推薦の件  
規程類制定の決議承認の件  
執行状況に関する報告事項  
公益認定申請に関する議論

### (2) 第26回理事会

日時：2021年5月12日  
場所：書面による決議  
出席：理事4名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）  
監事1名（新居誠一郎）  
審議事項：監査報告の件  
資金運用規程の決議承認の件



(3) 第 27 回理事会

日時：2021 年 5 月 31 日

場所：書面による決議

出席：理事 4 名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

監事 1 名（新居誠一郎）

審議事項：代表理事選定の件

(4) 第 28 回理事会

日時：2021 年 6 月 20 日 18 時 00 分～18 時 30 分

場所：zoom によるウェブ開催

出席：理事 3 名（中辻憲夫、細川美穂子、藤本一郎）

審議事項：執行状況に関する報告事項

(5) 第 29 回理事会

日時：2021 年 7 月 21 日 11 時 30 分～12 時 00 分

場所：zoom によるウェブ開催

出席：理事 4 名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

審議事項：執行状況に関する報告事項

(6) 第 30 回理事会

日時：2021 年 9 月 30 日 16 時 30 分～18 時 30 分

場所：zoom によるウェブ開催

出席：理事 4 名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

監事 1 名（新居誠一郎）

公益認定申請代理人弁護士（伊藤翔太）

審議事項：2022 年度事業計画書及び予算案骨子の議論

経理規程制定に関する議論

役員報酬規程に関する議論

執行状況に関する報告事項

公益認定申請に関する議論

(7) 第 31 回理事会

日時：2021 年 10 月 22 日 9 時 30 分～11 時 30 分

場所：zoom によるウェブ開催

出席：理事 4 名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

監事 1 名（新居誠一郎）

公益認定申請代理人弁護士（伊藤翔太）

審議事項：評議員報酬規程の決議承認の件  
役員報酬規程の決議承認の件  
評議員会運営規則の決議承認の件  
臨時評議員会招集の決議の件  
理事会運営規則の決議承認の件  
個人情報取扱基本方針の決議承認の件  
謝金規程改定の決議承認の件  
執行状況に関する報告事項  
公益認定申請に関する議論

(8) 第 32 回理事会

日時：2021 年 11 月 23 日

場所：書面による決議

出席：理事 4 名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

監事 1 名（新居誠一郎）

審議事項：研究奨励選考委員会運営規則の決議承認の件  
人材育成選考委員会運営規則の決議承認の件

(9) 第 33 回理事会

日時：2021 年 12 月 3 日

場所：書面による決議

出席：理事 4 名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

監事 1 名（新居誠一郎）

審議事項：経理規程の決議承認の件  
研究費助成金交付規程の決議承認の件  
会議開催費助成金交付規程の決議承認の件  
理系出身者への法科大学院奨学金給付規程の決議承認の件  
困難な状況にある子ども達への学習支援助成金交付規定の決議承認の件

(10) 第 34 回理事会

日時：2022 年 1 月 19 日 11 時 30 分～12 時 00 分

場所：zoom によるウェブ開催

出席：理事 3 名（中辻憲夫、細川美穂子、藤本一郎）

審議事項：執行状況に関する報告事項

## 公益認定申請に関する議論

### (11) 第 35 回理事会

日時：2022 年 2 月 10 日 9 時 30 分～11 時 30 分

場所：zoom によるウェブ開催

出席：理事 4 名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

監事 1 名（新居誠一郎）

公益認定申請代理人弁護士（伊藤翔太）

審議事項：2022 年度（第 8 期）事業計画書承認の件

2022 年度（第 8 期）予算案承認の件

細川事務局長雇用契約書締結の件

執行状況に関する報告事項

公益認定申請に関する議論

### (12) 第 36 回理事会

日時：2022 年 3 月 16 日

場所：書面による決議

出席：理事 4 名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

監事 1 名（新居誠一郎）

審議事項：規程集及び公益目的事業実施要領編纂の件

執行状況に関する報告事項

公益認定申請に関する議論

### (13) 第 7 回評議委員会

日時：2021 年 5 月 31 日

場所：書面による決議

出席：評議員 8 名（饗庭一博、門田真、加納圭、小板貞一、

中馬新一郎、中辻孝子、長友麻希子、西川輝昭）

理事 4 名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

監事 1 名（新居誠一郎）

報告事項：2020 年度（第 6 期）事業報告の件

2020 年度（第 6 期）監査報告の件

2021 年度（第 7 期）予算案及び事業計画報告の件

規程類の制定と運用開始の件

公益認定申請の状況の件

決議事項：2020 年度（第 6 期）計算書類承認の件

定款変更の件  
理事・評議員選任の件  
理事報酬改定の件  
基本財産資金運用規程制定の件

(12) 臨時評議委員会

日時：2021年11月4日

場所：書面による決議

出席：評議員9名（饗庭一博、門田真、加納圭、小板貞一、  
迫田さやか、中馬新一郎、中辻孝子、長友麻希子、  
西川輝昭）

理事4名（中辻憲夫、細川美穂子、長谷川博、藤本一郎）

監事1名（新居誠一郎）

決議事項：役員報酬規程改定の件

評議員報酬規程改定の件

評議員会運営規則制定の件

4. 収支及び正味財産増減の状況並びに財産状態の推移  
別紙参照。